

氏名 谷 口 正 廣

学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1863 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和62年12月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学 位 論 文 題 目	エンフルレン麻酔の循環動態と肝血流に関する実験的研究
論 文 審 査 委 員	教授 辻 孝夫 教授 寺本 滋 教授 折田薰三

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

雑種成犬20頭を用いてエンフルレン吸入中（酸素・エンフルレン麻酔2%および3%：以下OE2%群、OE3%群）およびエンフルレン吸入中止後における全身循環動態と肝循環動態の検討を行なった。

エンフルレン吸入中は心拍出量の減少に伴い、門脈血流量は減少したがOE2%群では肝動脈血流量は保持され、OE3%群即ち約1MACの麻酔では、心拍出量の減少と肝動脈血流量の減少との間に正の相関が生じた。しかし、この減少率は門脈血流量の減少率よりも軽度であった。

全末梢血管抵抗、および腸間膜血管抵抗は、OE2%群、OE3%群ともに同じ程度にエンフルレン吸入中は減少し、吸入中止後は増加するため、全身の血流分布異常は少ないと考えられた。さらに、1MACまでのエンフルレン麻酔では肝の血流動態は保たれて、肝における酸素の需給バランスが良く維持されたものと考えられた。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、エンフルレン麻酔の循環動態と肝血流に関する実験的研究を犬を用いて行ったもので、2%麻酔群では肝動脈血流量は保持され、3%群では心拍出量の減少と肝動脈血流量の減少との間に正の相関が生じること、しかしこの麻酔は肝の血流動態を良く保つこと、酸素の需給バランスも良いことなど知見を得ている。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。